株式会社ビー・エム・エル

# 2026年度第2四半期
# 決算説明会

2026年11月11日

代表取締役社長

近藤 健介

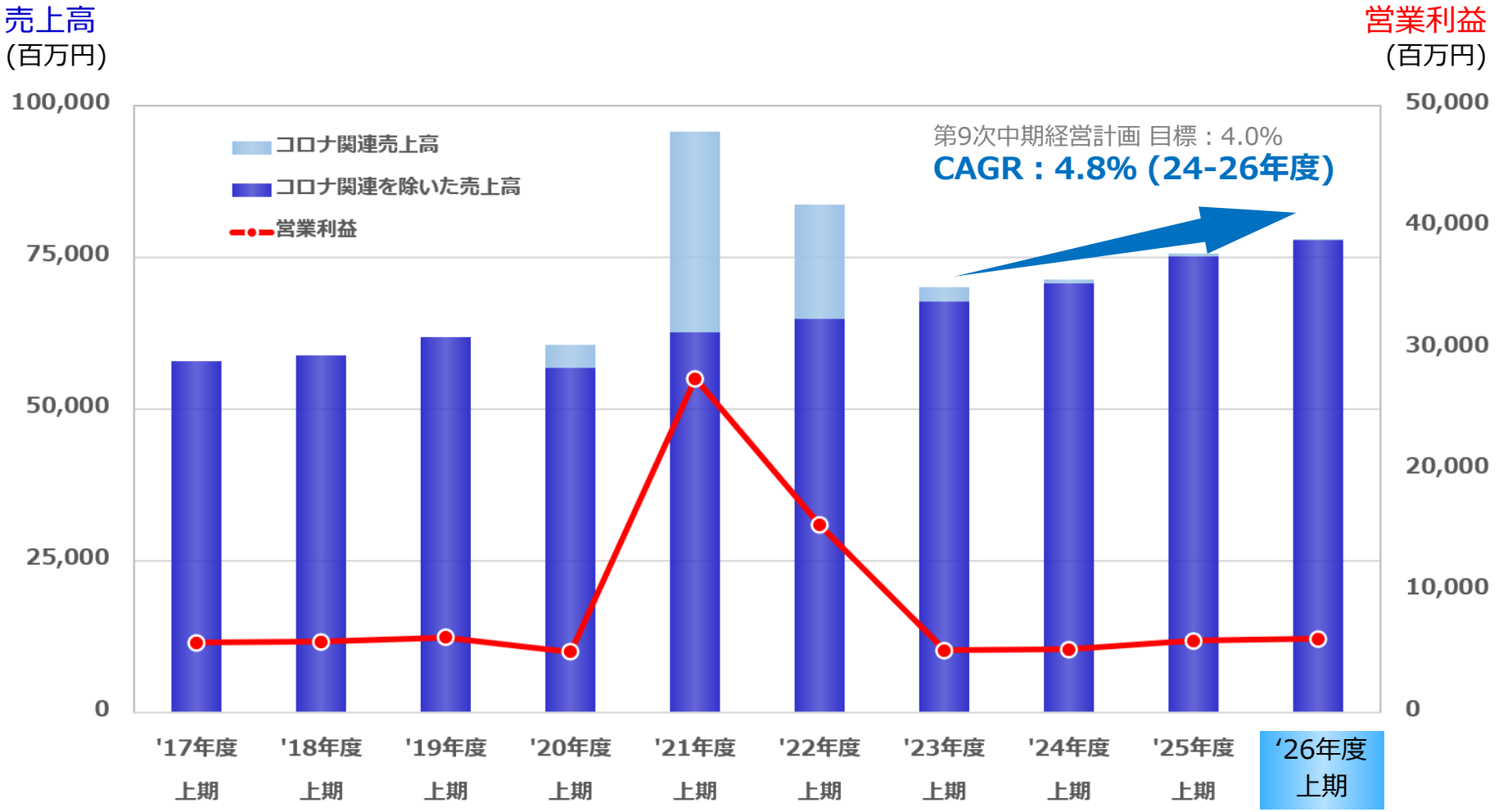
# 目次


- 2026年度第2四半期決算業績概要
- 第9次中期経営計画の進捗
- 新本社ビル構想
- 2026年度通期の業績見通し
- 株主還元

# 2026年度第2四半期決算業績概要

# 10年間の業績推移

## 新規獲得に加え収益性向上への取り組みで増収・増益



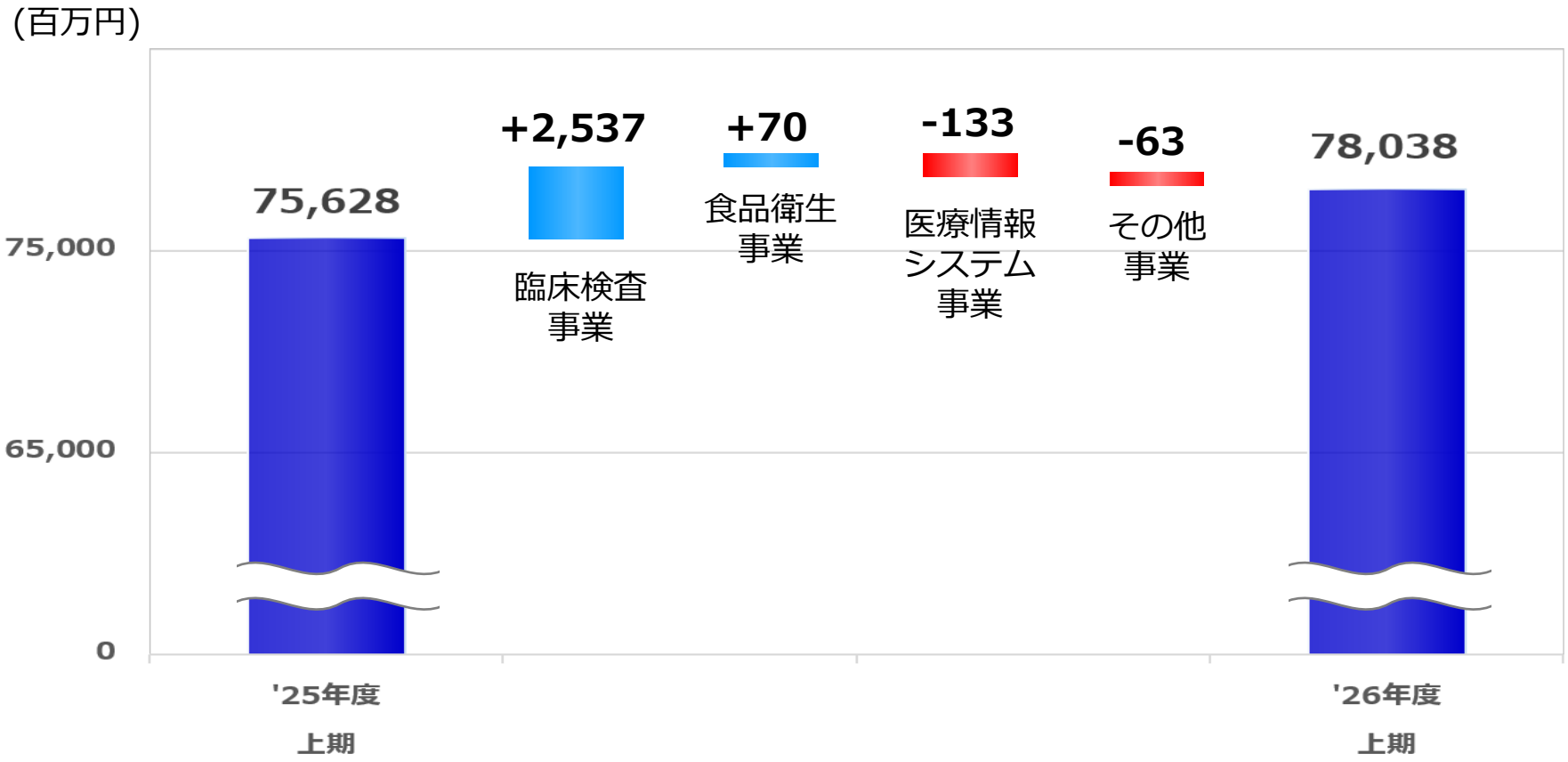
# 前年度業績比較表

（百万円）

| | '25年度 上期 | '26年度 上期 | 増減額 | 増減率 |
|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 75,628 | 78,038 | 2,409 | 3.2% |
| 検査事業 | 72,197 | 74,805 | 2,607 | 3.6% |
| 臨床検査 | 69,681 | 72,218 | 2,537 | 3.6% |
| 食品衛生 | 2,516 | 2,586 | 70 | 2.8% |
| 医療情報システム | 2,665 | 2,531 | -133 | -5.0% |
| その他事業 | 765 | 701 | -63 | -8.3% |
| 営業利益 | 5,915 | 6,046 | 131 | 2.2% |
| 経常利益 | 6,118 | 6,335 | 216 | 3.5% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 4,219 | 4,010 | -208 | -4.9% |
| EBITDA | 10,143 | 10,549 | 406 | 4.0% |

# 事業別売上高増減の内訳

## 売上高 前期比 24億9百万円 (3.2%) 増収



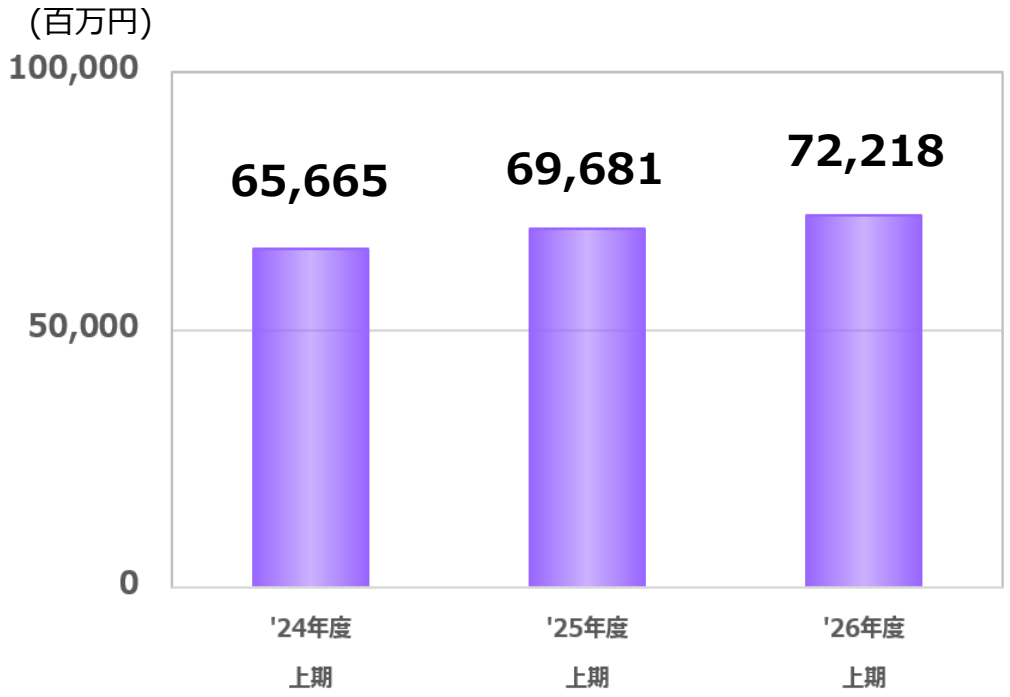
# 事業別営業利益増減の内訳

## 営業利益 前期比 1億31百万円 (2.2%) 増益



# 臨床検査事業の概要

売上高　722億18百万円
前期比　25億37百万円（3.6%）増収

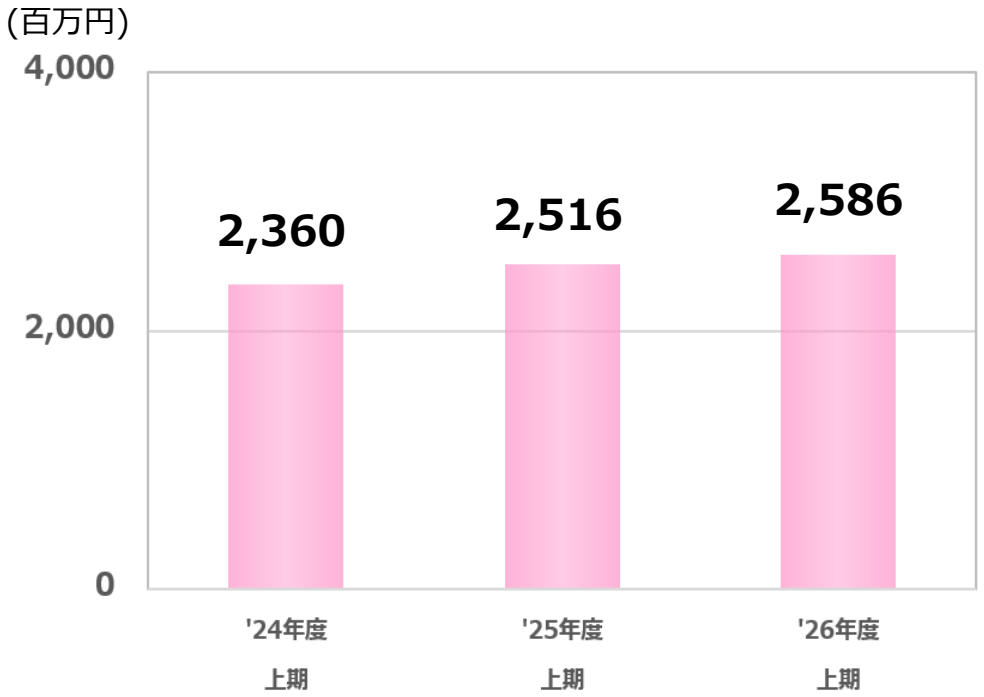



## 主なトピック

- ✓ 新規獲得
  - ・ 新規顧客を順調に獲得
- ✓ 販売価格の適正化を推進
  - ・ 不採算項目および不採算取引先の見直し
- ✓ 価格変動
  - ・ +1.18%の上昇

# 食品衛生事業の概要

売上高　25億86百万円
前期比　70百万円（2.8%）増収



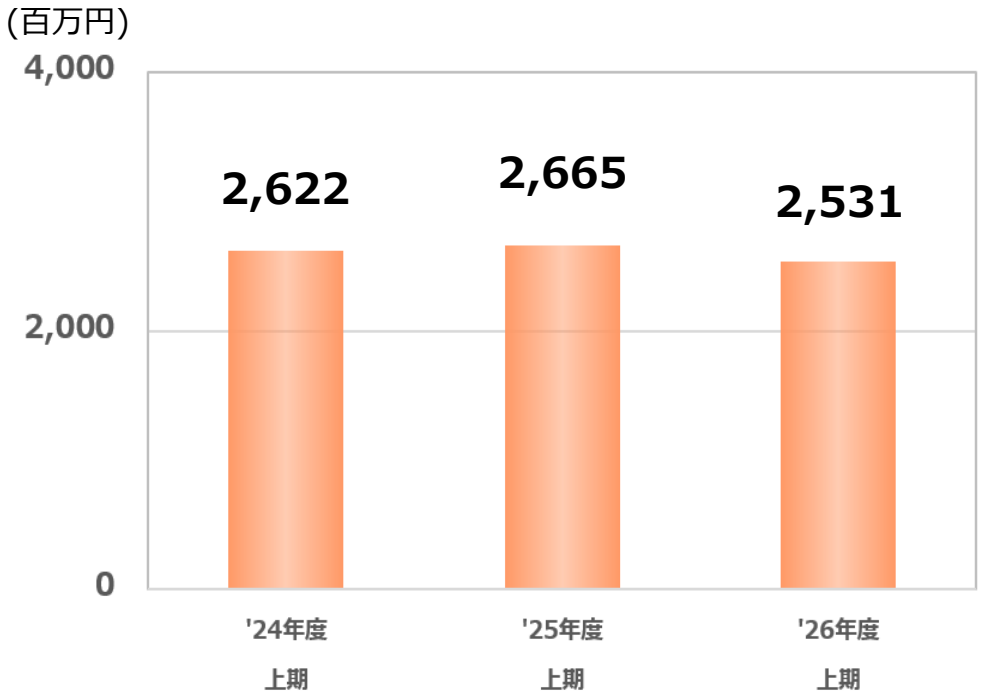

## 主なトピック

✓　食品コンサルティング
- 総合取引提案を推進したことにより店舗点検や認証業務の受注が増加

✓　食品検査
- 食品微生物検査で検査実施件数が増加

# 医療情報システム事業(電子カルテ)の概要

売上高　25億31百万円
前期比　1億33百万円（5.0%）減収

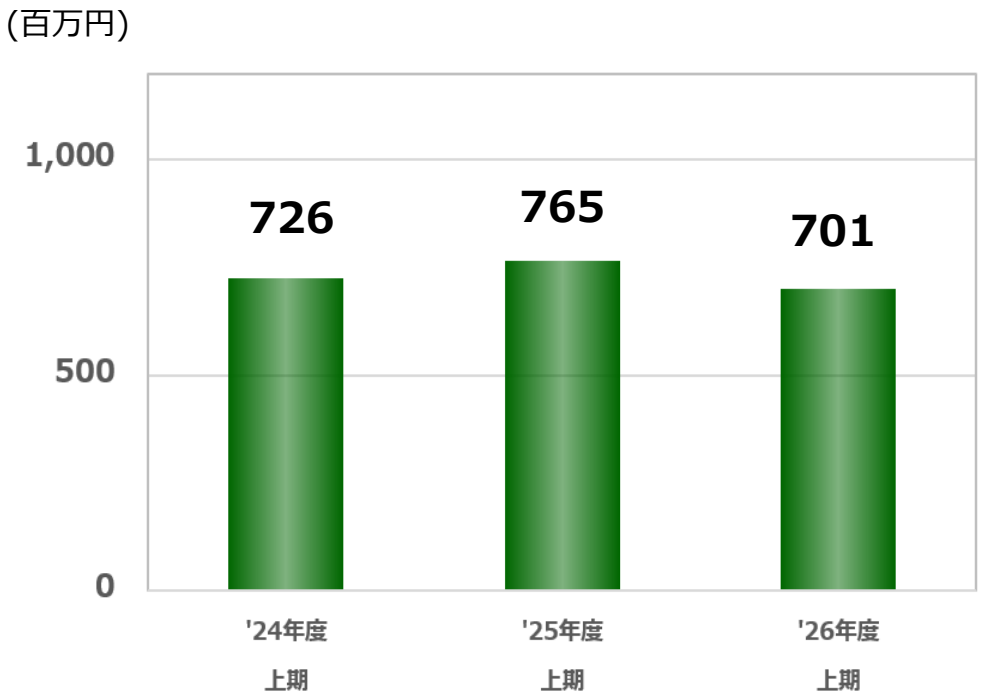



## 主なトピック

✓　リプレイス
・ リプレイス案件が
前期の反動もあり減少

# その他事業の概要

売上高　7億1百万円
前期比　63百万円（8.3%）減収

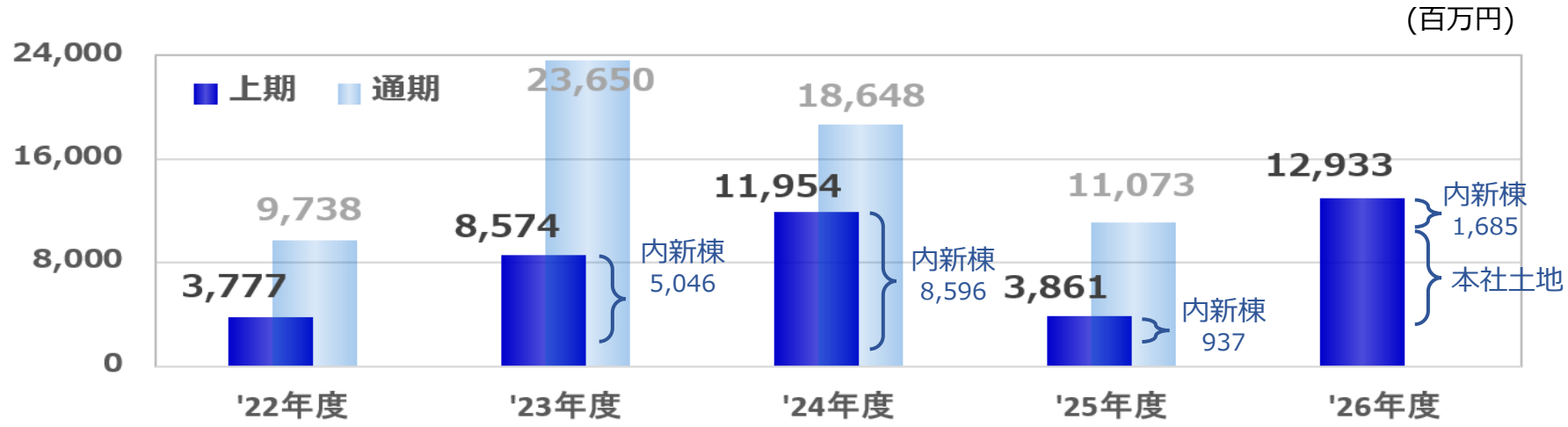



## 主なトピック

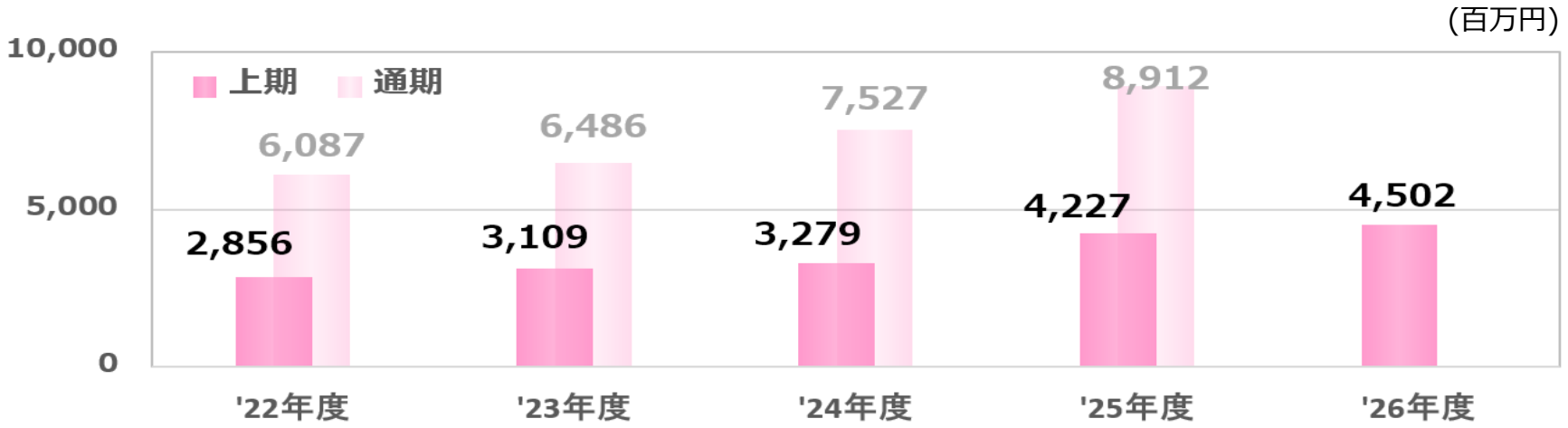
✓　調剤薬局事業
- 診療報酬改定の影響
- 高額薬剤処方が減少

# 設備投資額・減価償却費の概要

## 設備投資額




## 減価償却費



# キャッシュフローの概要

(百万円)

| | '25年度 上期 | '26年度 上期 | 増減額 |
|---|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 11,515 | 6,242 | -5,273 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | -4,713 | -14,863 | -10,150 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | -9,196 | -3,489 | 5,707 |
| 現金および現金同等物の期末残高 | 61,533 | 52,573 | -8,959 |

**主な増減の内容**

**■ 営業活動によるキャッシュ・フロー**

未収消費税等の増減額 ： －1,284

未払消費税等の増減額 ： －3,380

**■ 投資活動によるキャッシュ・フロー**

有形固定資産の取得による支出 ： －8,184

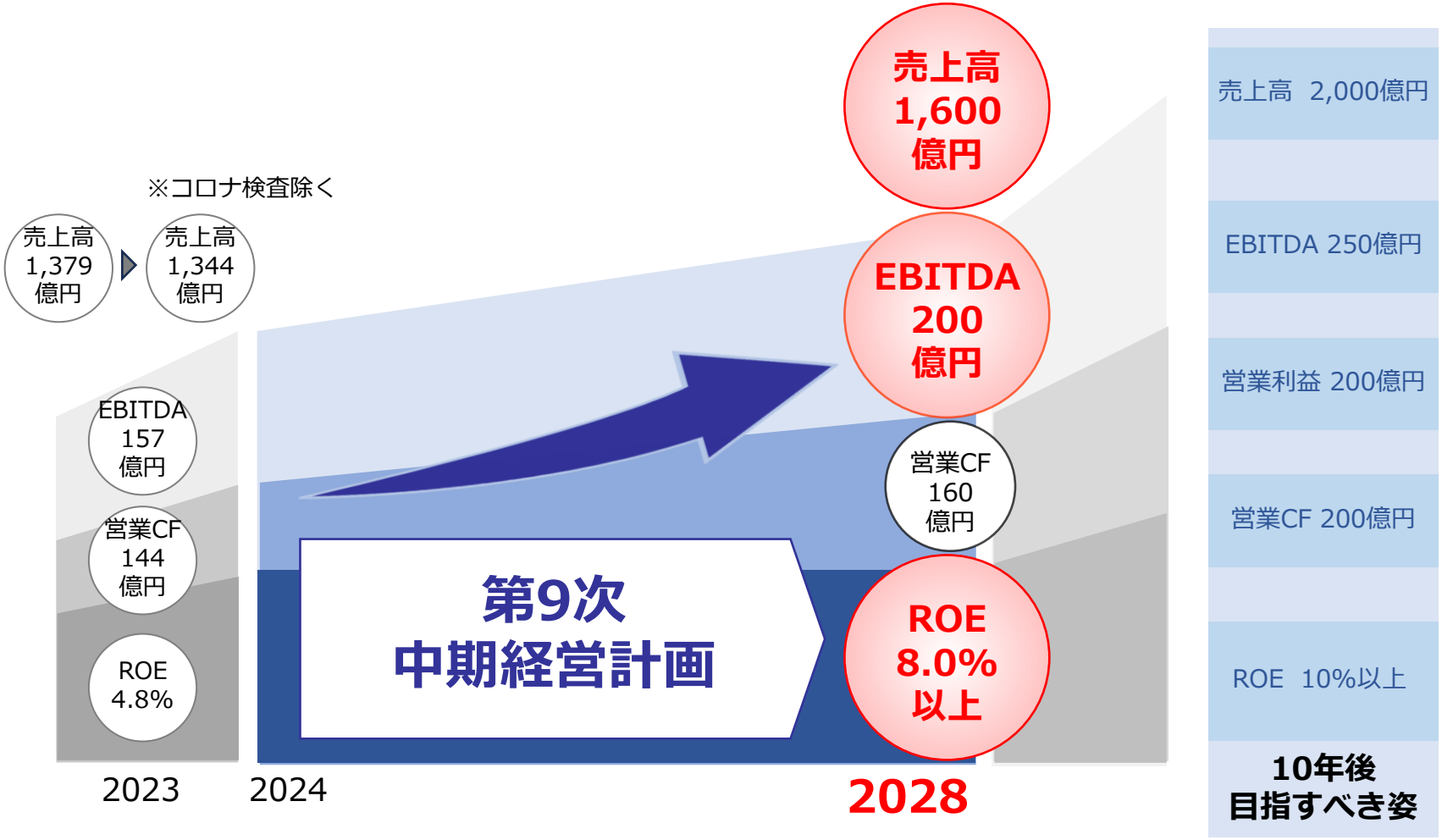
**■ 財務活動によるキャッシュ・フロー**

自己株式の取得による支出 ： +5,382

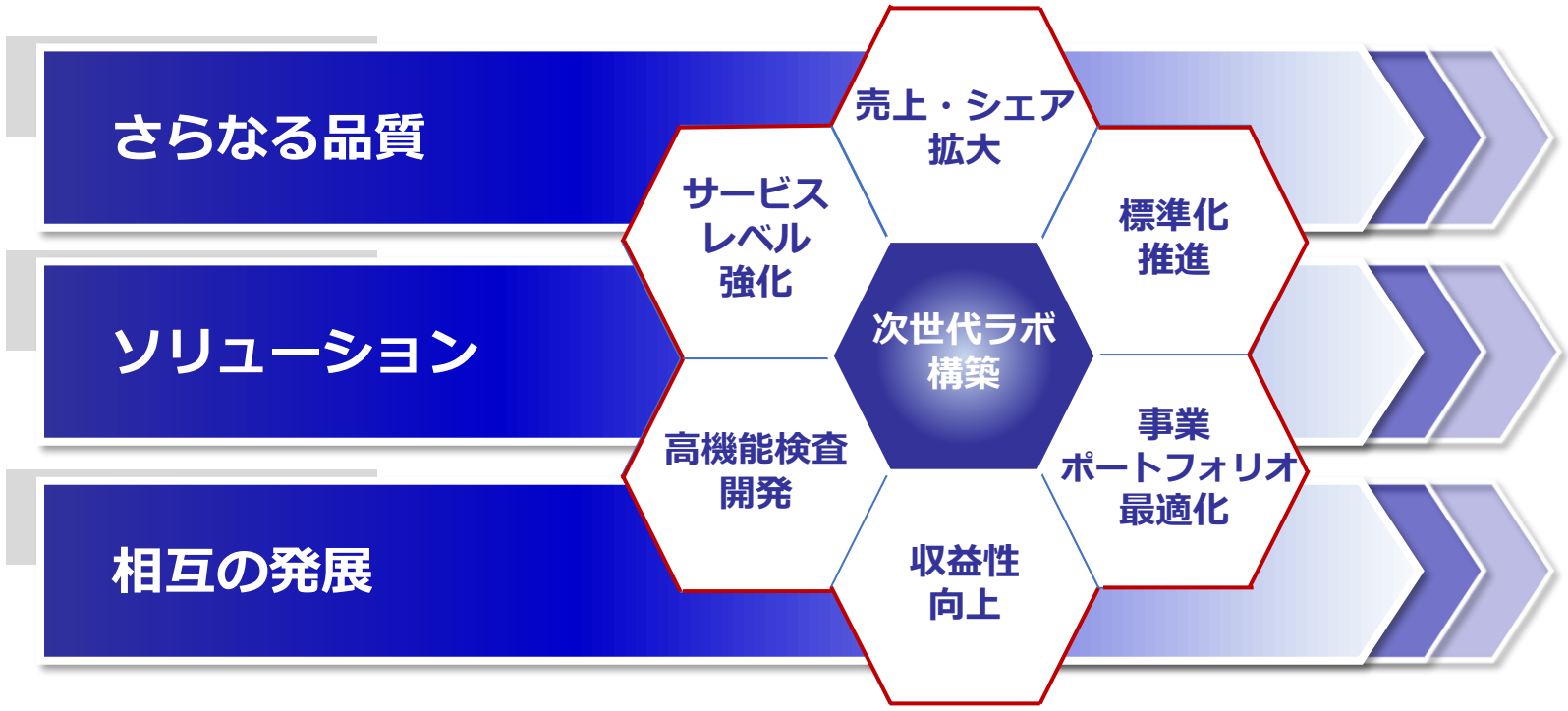
# 第9次中期経営計画の進捗

# 目指すべき姿

- 安定した売上成長
- 新棟・DX・価格戦略効果による収益の飛躍的向上
- バランスのとれた成長投資と株主還元



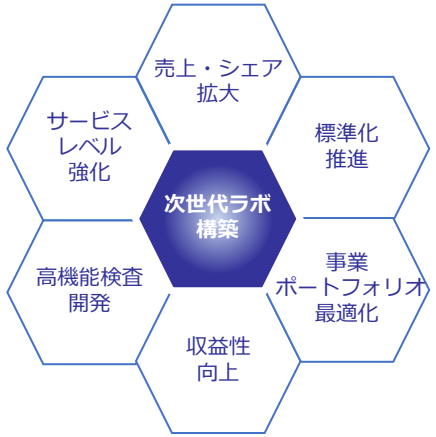
# 基本戦略フレームワーク




DX ～ 顧客体験価値の向上 × 業務効率化 ～

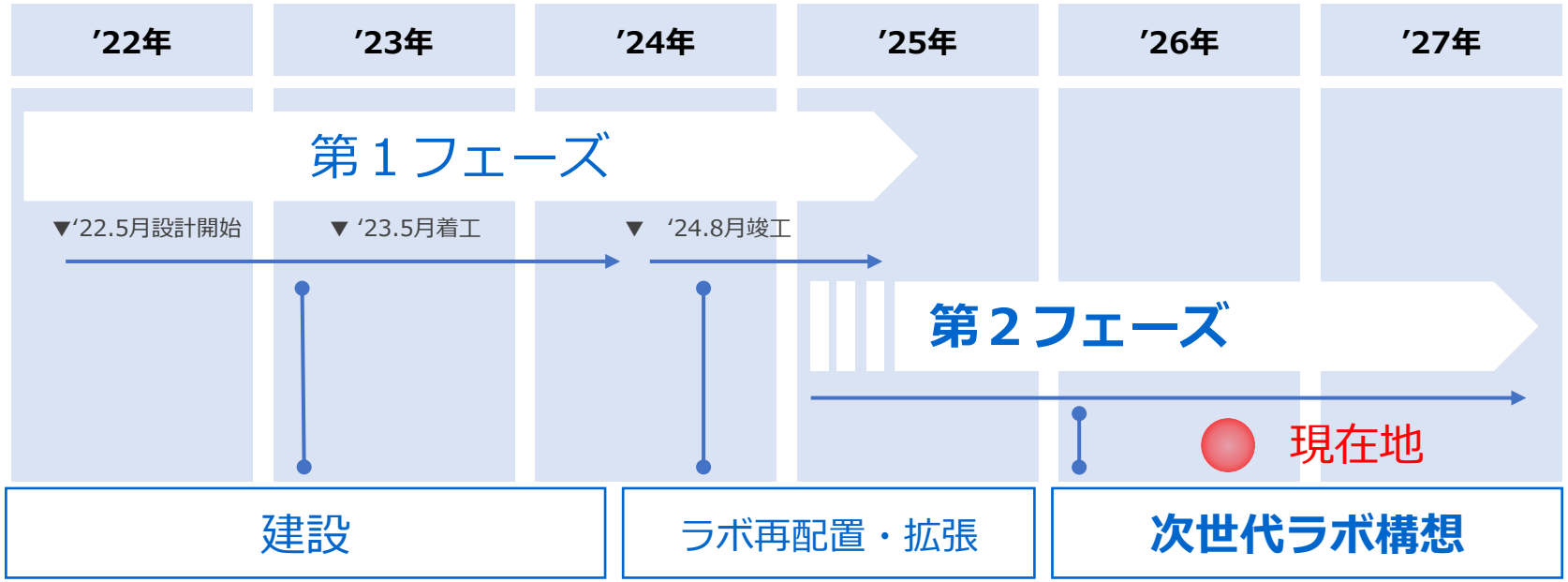
ESG（環境・社会・ガバナンス）

# 次世代ラボ構築

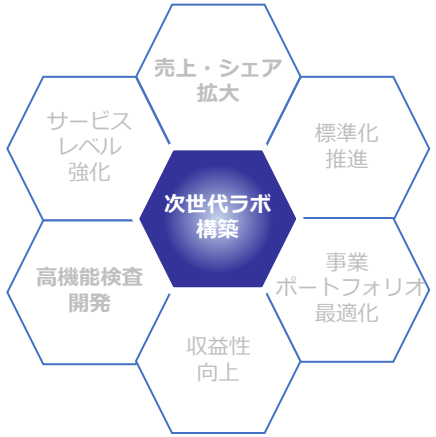



## ロードマップ

- 第1フェーズ：新棟建設によるBCP/環境対策と検査スペースの拡張
- **第2フェーズ：将来の業容拡大に合わせた検査処理能力・効率の向上**



# 次世代ラボ構築

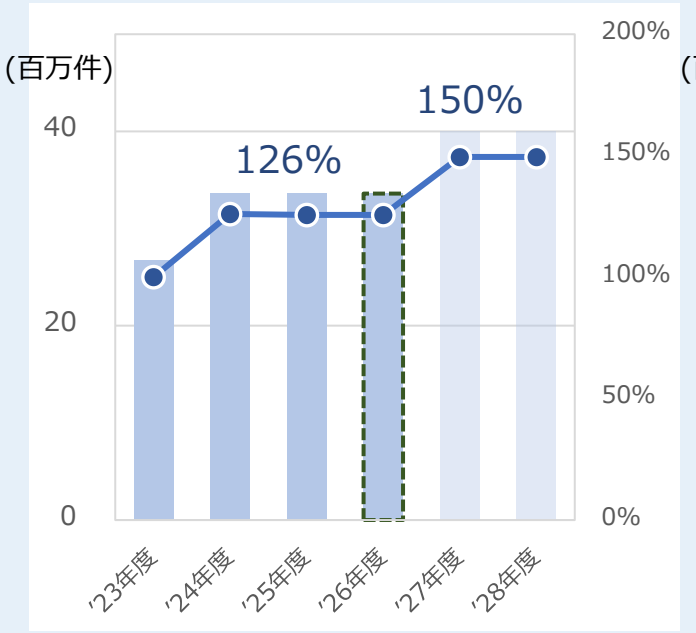



■ 新棟竣工に伴う検査キャパシティの拡張

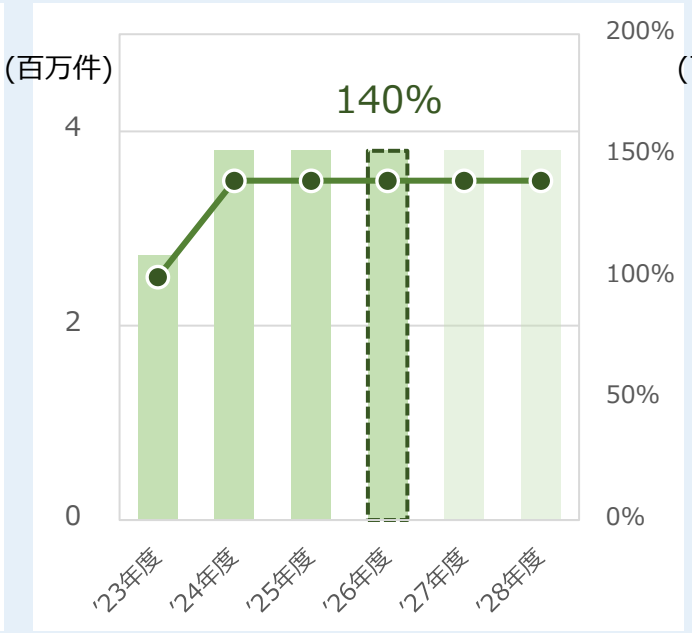
✓ ’23年度対比 **140～150%** の検査能力へ拡張

✓ ’25年度までは計画通り進捗

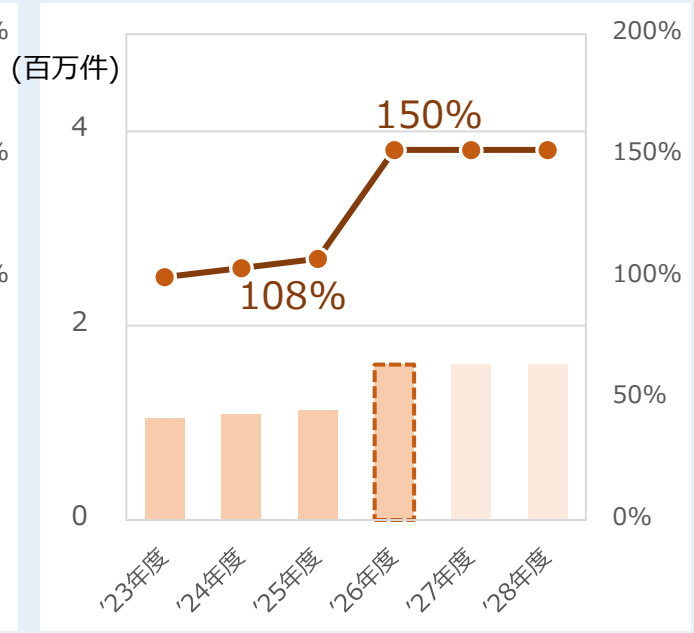
<ルーティン検査>



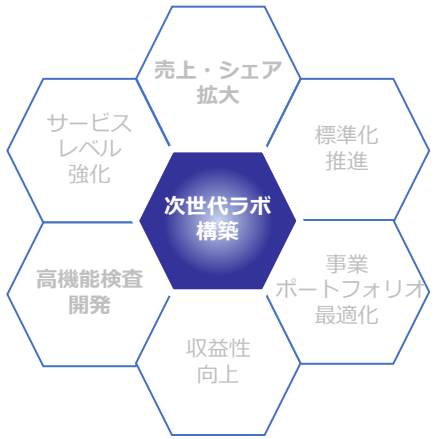

<微生物学的検査>




<ゲノム検査>



# 次世代ラボ構築

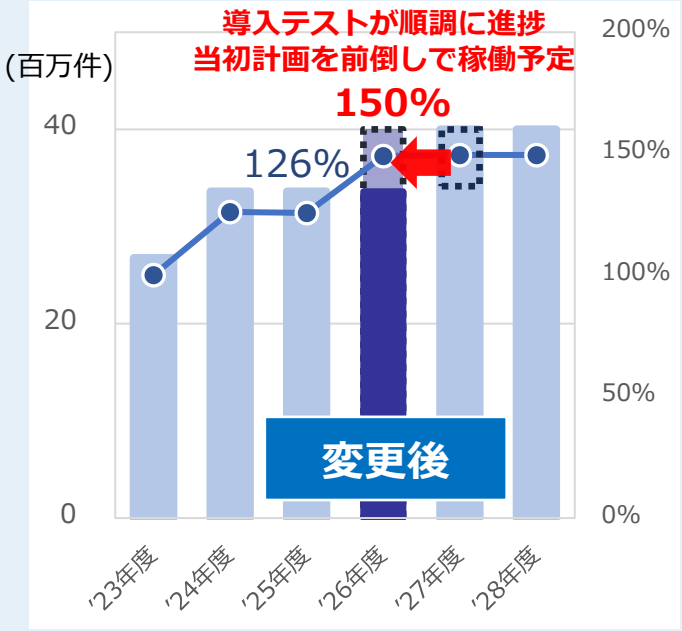



## フロンティア(分注工程)

✓ 生産性の向上
- 独自分注装置により処理能力　　30%向上
  (拡張スペースの確保によりさらに20%の向上が可能)

✓ 顧客サービスの向上
- バーコードとRFIDを併用することで、すべての検体で個々の識別が可能となり、トレーサビリティーの向上が実現

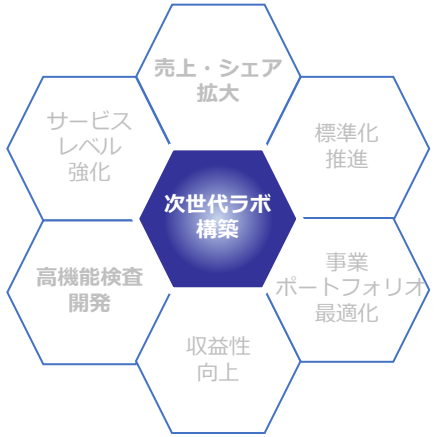
<ルーティン検査>




■フロンティア：'26年4月より順次稼働



# 次世代ラボ構築

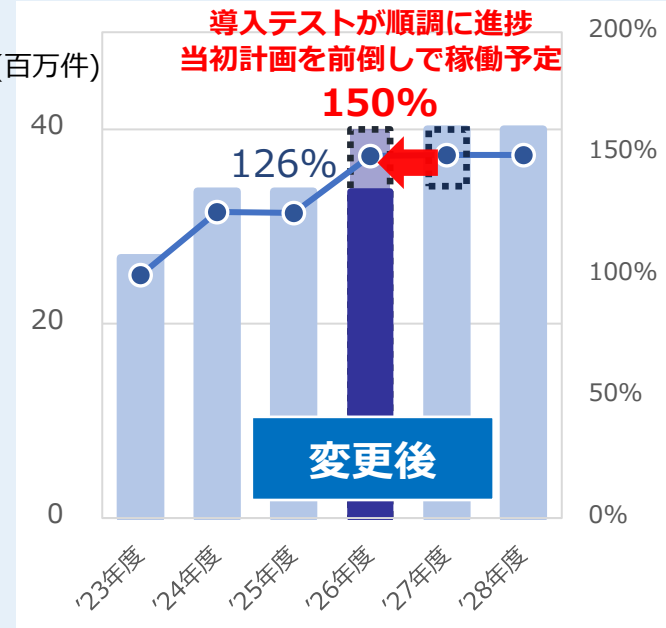



## シンフォニー・ケミストリー(生化学的検査)

✓ 生産性の向上
- 微量測定の実現による試薬削減　　30%削減
- 拡張スペースの確保により処理能力の25%の向上が可能

✓ 顧客サービスの向上
- 微量測定により必要検体量を削減(患者様の採血時の負担軽減に繋げる)

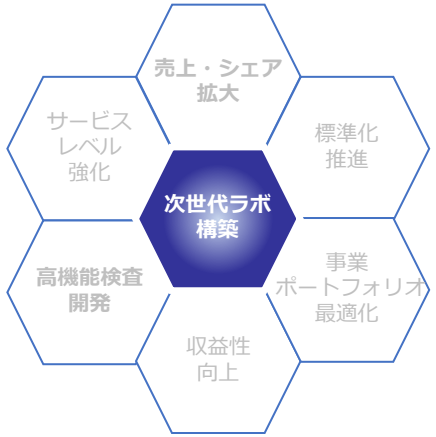
<ルーティン検査>




■シンフォニー・ケミストリー：'26年4月より順次稼働



# 次世代ラボ構築

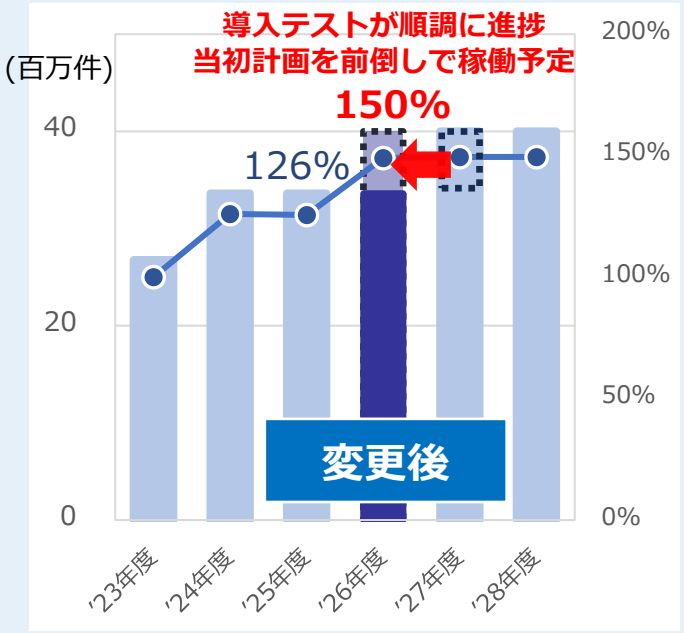



## シンフォニー・ヘマトロジー(血液学的検査)

✓ 生産性の向上
- 検査処理能力　　26%向上
  (拡張スペースの確保によりさらに30%の向上が可能)

✓ 顧客サービスの向上
- 再検査が必要なった血液像の翌日報告率が90%へ向上

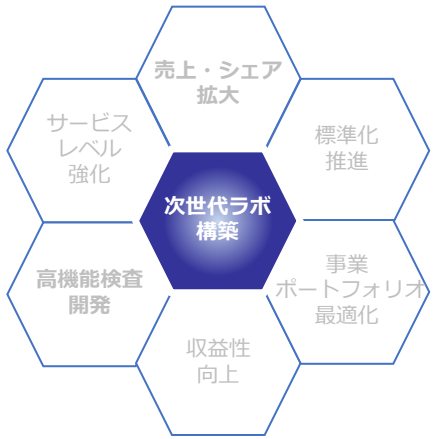
<ルーティン検査>




■シンフォニー・ヘマトロジー：'25年1月より稼働



# 次世代ラボ構築

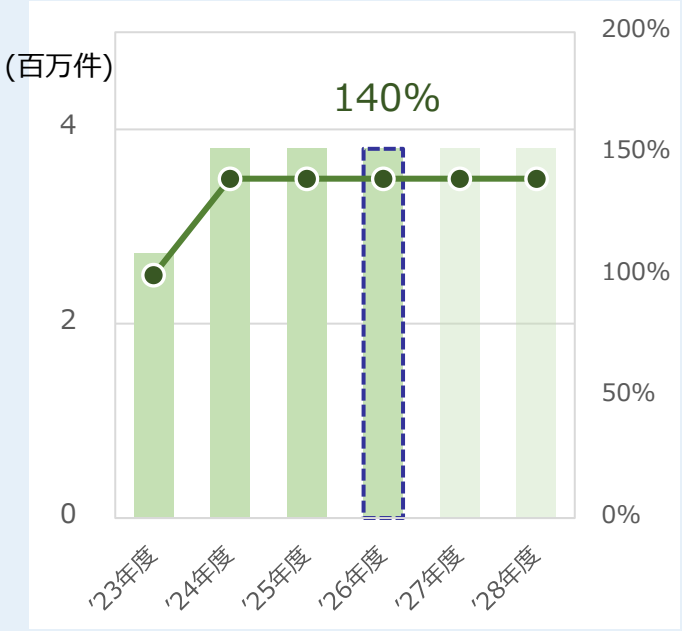



## 微生物学検査

✓ 生産性の向上
- 薬剤感受性試験の検査能力　　20%向上
  (拡張スペースの確保によりさらに20%の向上が可能)

✓ 顧客サービスの向上
- 検査工程の効率化により至急報告　5時間短縮

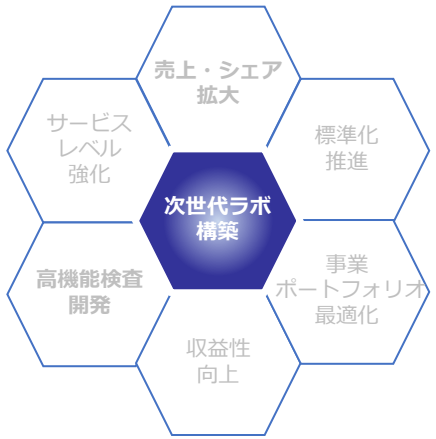
<微生物学的検査>




■微生物学的検査：'25年1月より稼働



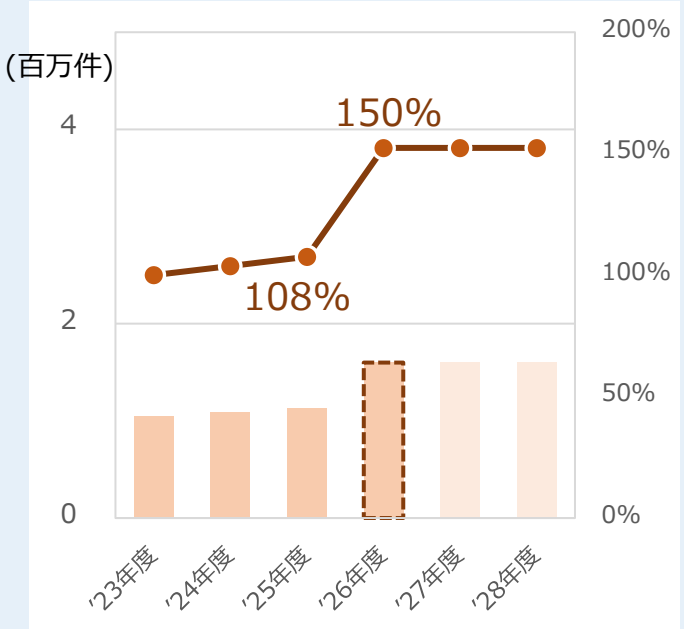
# 次世代ラボ構築



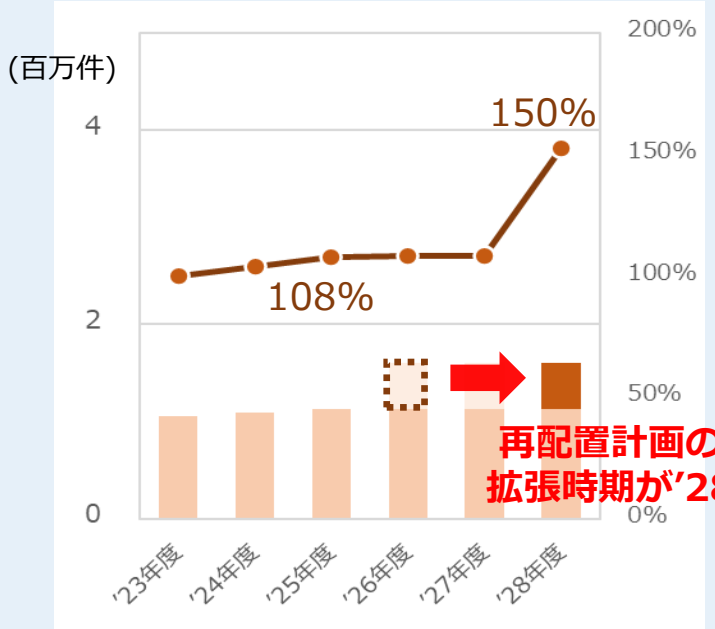

## ゲノム検査

✓ 当初計画の変更
- 検査スペース再配置の遅れから拡張時期が’26年度から’28年度へ後ろ倒し

<ゲノム検査>

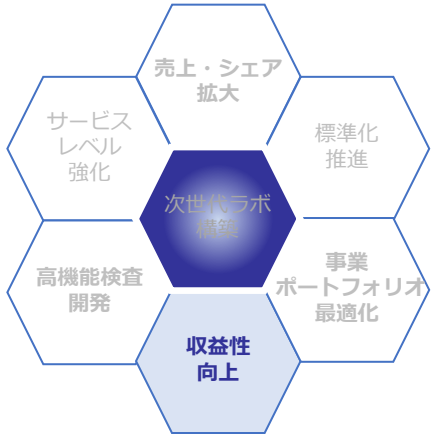



■ ゲノム検査：計画比遅延で完了予定




**再配置計画の遅れから拡張時期が’28年へ変更**

# 収益性向上

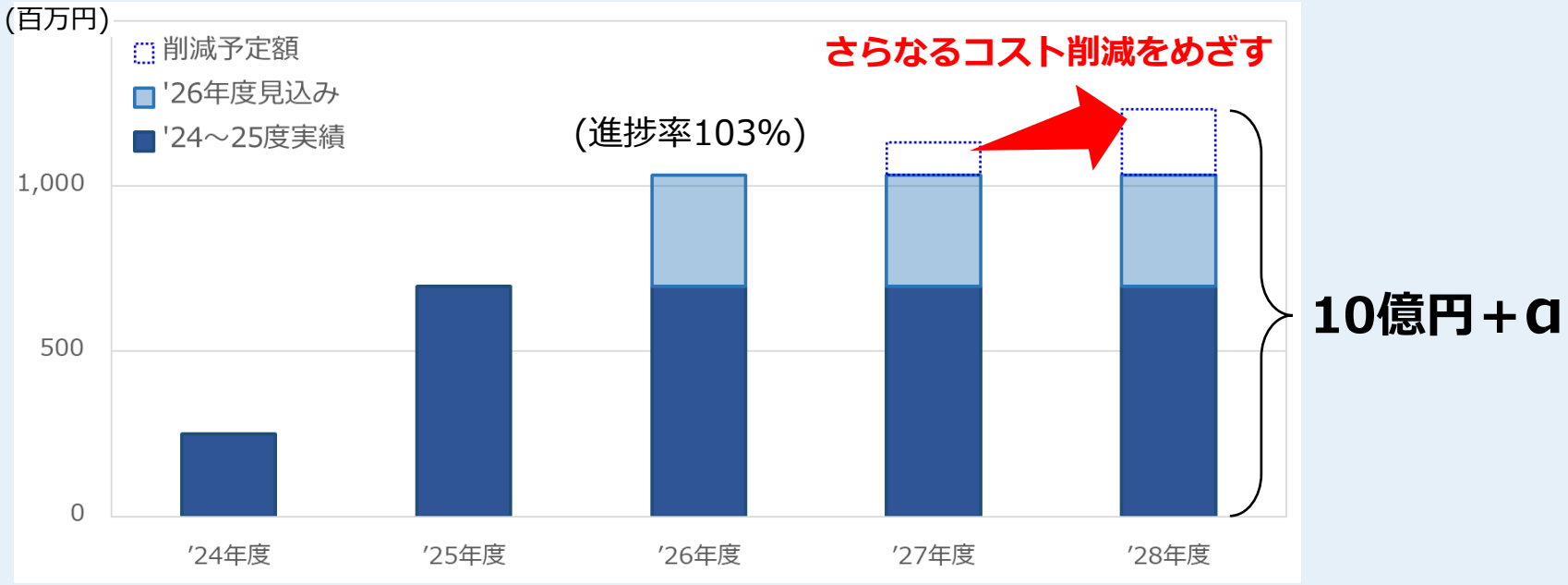



■ 新棟建設によるコスト削減

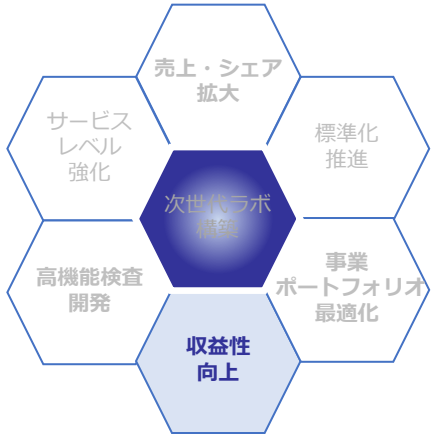
✓ 受付～報告工程：**10億円**の**削減目標**
→ ‘26年度　進捗率103%（目標達成見込み）
→ さらなるコスト削減をめざす

主な施策
「最新鋭機器導入」・「IT化」・「省人化」

<コスト削減計画>



# 収益性向上

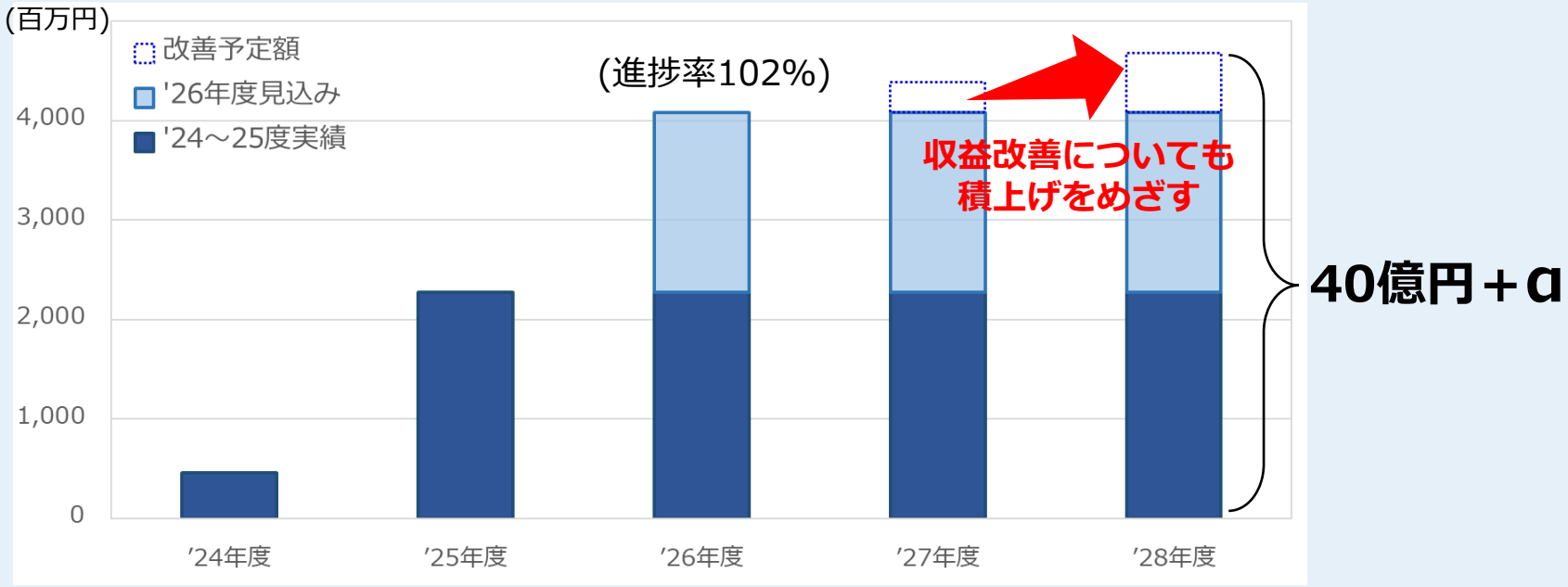



■ 臨床検査事業の採算性を抜本的に改善

✓ 収益性向上：**40億円**の**収益改善目標**
→ ‘26年度　進捗率102%（目標達成見込み）
→ 活動を継続し、さらなる改善をめざす

主な施策
「不採算項目および不採算取引先の価格適正化」
「集配体制の見直し」・「ラボ採算改善」

＜収益改善額＞



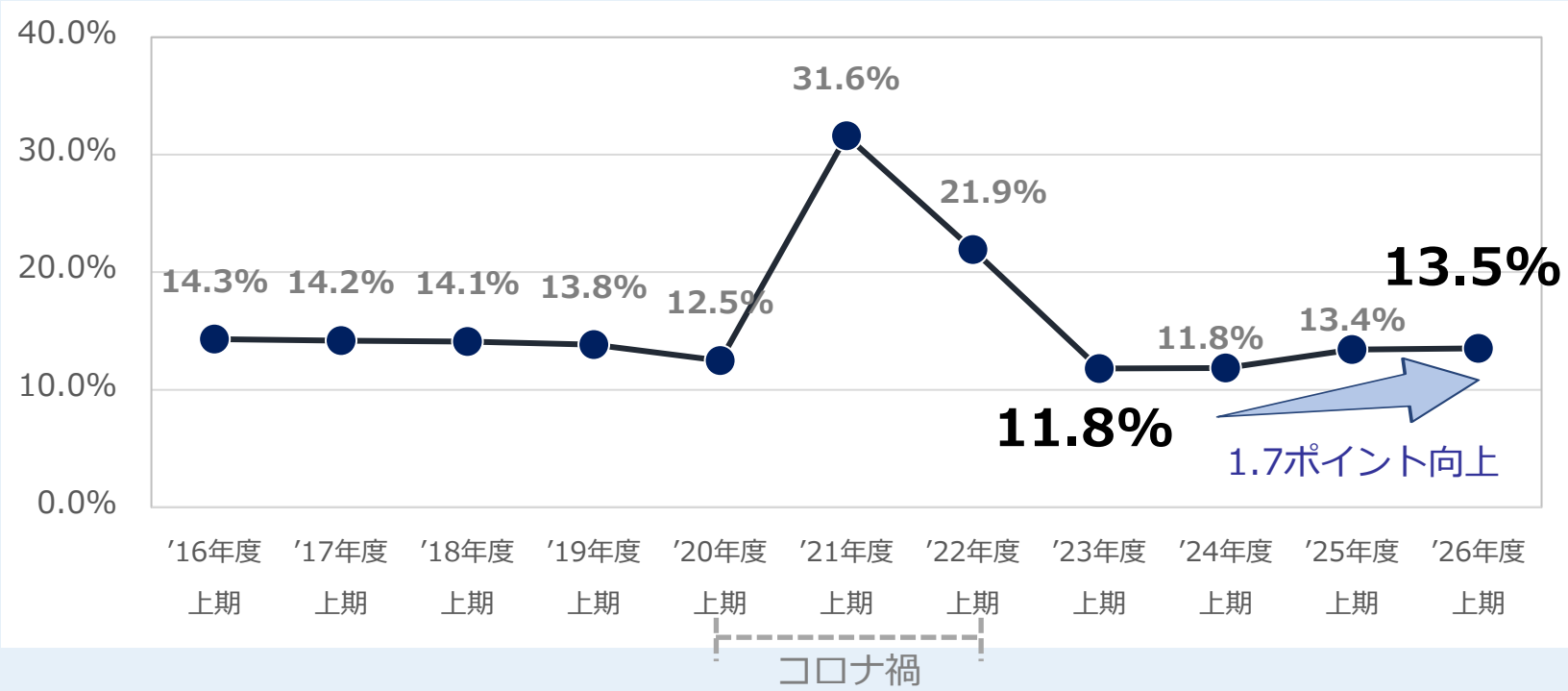
# EBITDAマージンの推移

■ 収益性向上計画

✓ EBITDAマージンは‘23年度をボトムに向上を継続

✓ コロナ禍前の水準まで回復をめざす

＜EBITDAマージンの推移 ＞



# 新本社ビル構想

# Cross Function

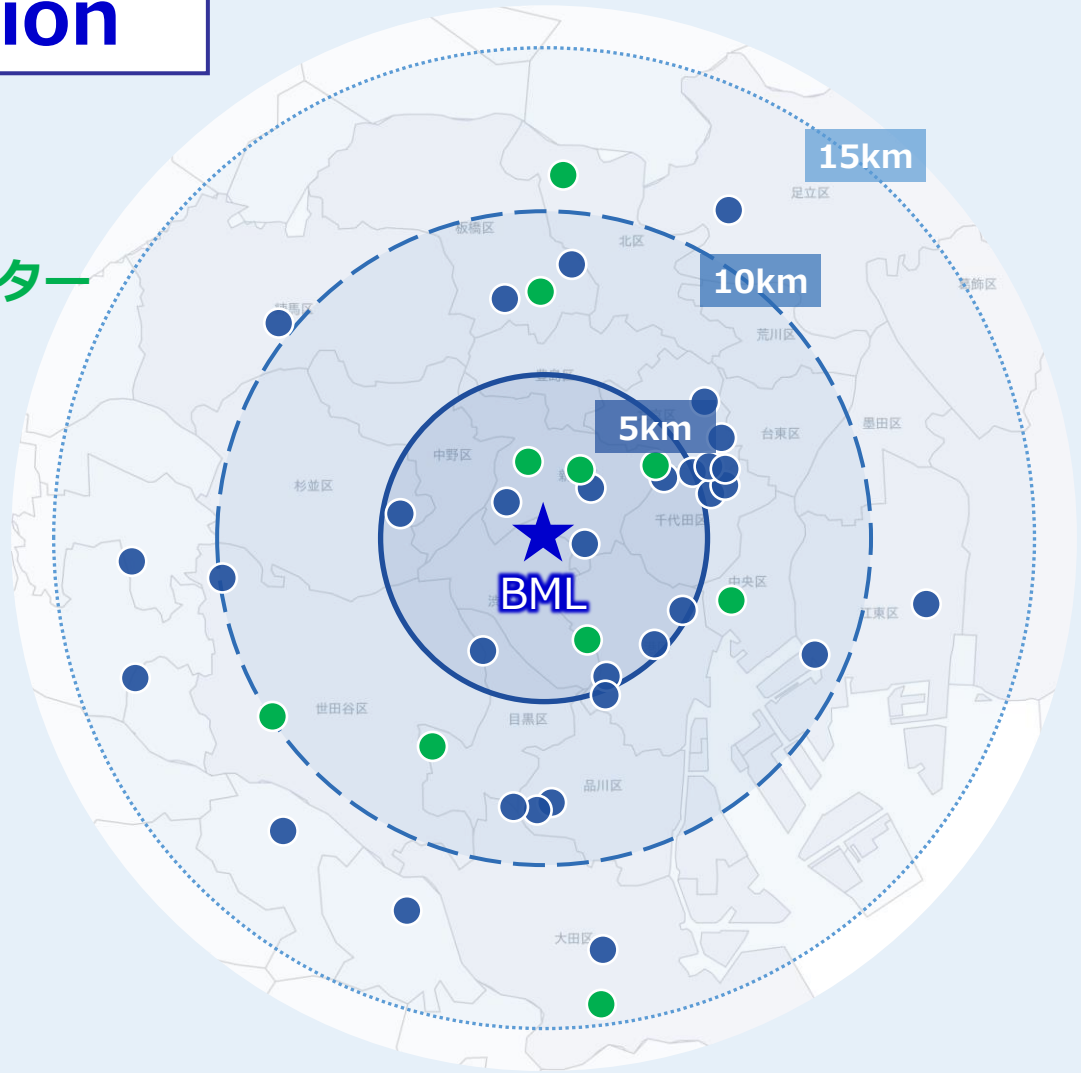
– 社内外の様々な機能・リソースを融合する –



# 新本社ビル構想

アカデミアとの
## Cross Function

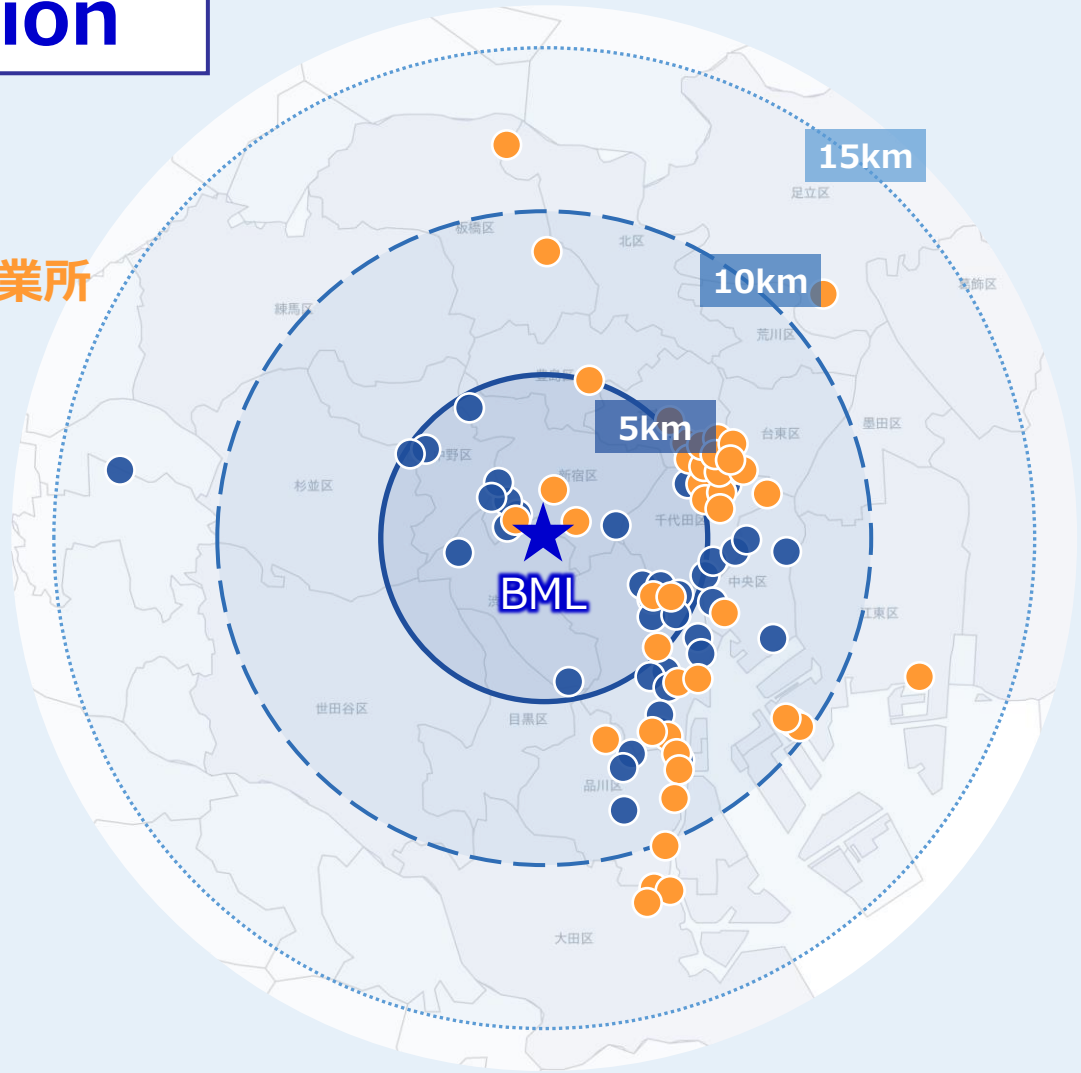
- 大学病院
- 医療センター



# 新本社ビル構想

**医療機器メーカーとの**
## Cross Function

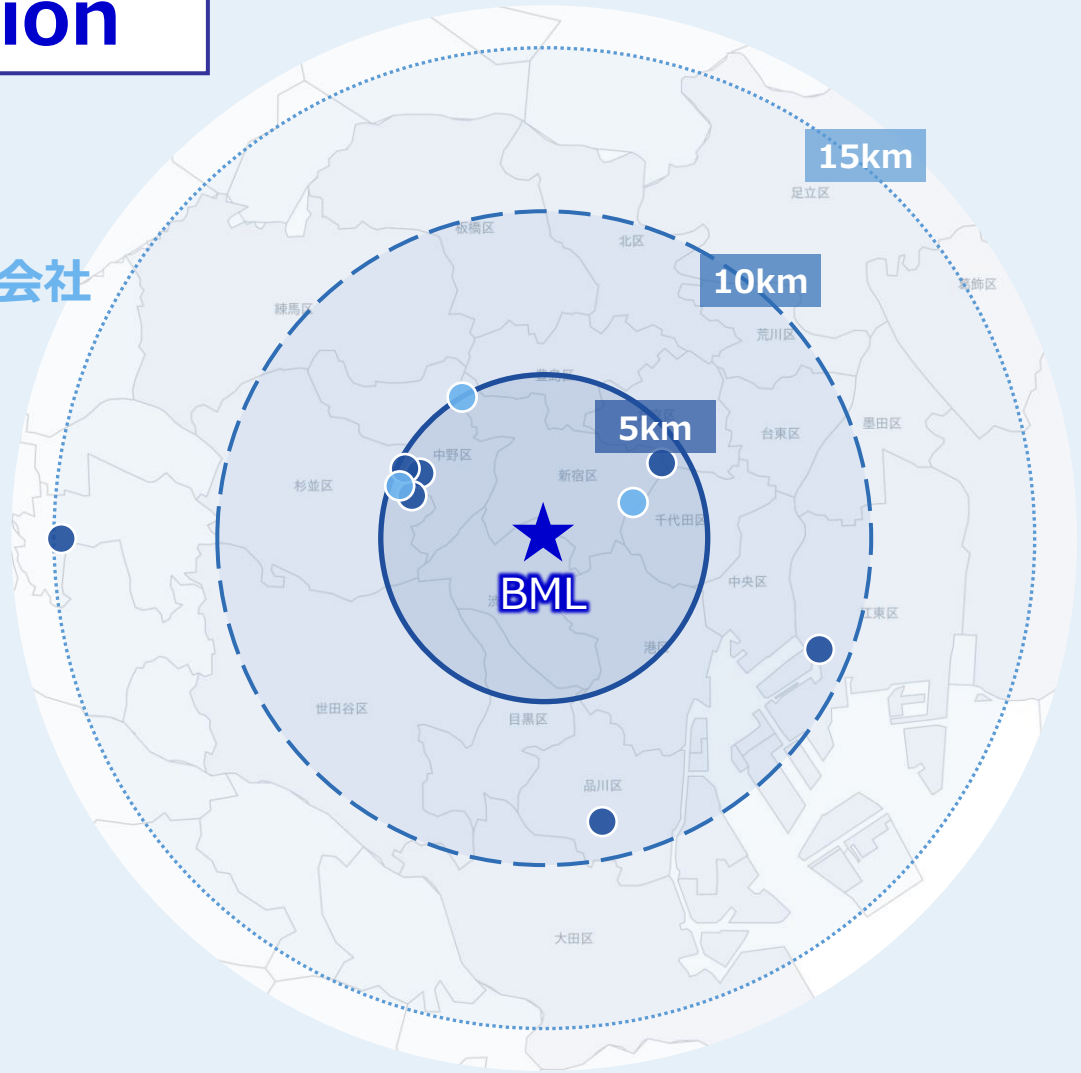
- **本社**
- **支店・営業所**



# 新本社ビル構想

**BMLグループとの**
## Cross Function

- **BML**
- **グループ会社**



# 新本社ビル構想

＜ 新本社ビル外観イメージ ＞





# 新本社ビル構想

＜ 新本社ビル内観イメージ ＞



# 2026年度通期の業績見通し

# 2026年度通期の業績見通し

- 期初計画を据え置く
- 新棟関連の減価償却費がピークを迎える年度
- 中東情勢を背景とした価格上昇の影響によるコスト増を見込む

(百万円)

| | '25年度 | '26年度 計画 | 増減額 | 増減率 | '26年度 上期実績 | 進捗率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 150,262 | **155,000** | 4,738 | 3.2% | 78,038 | 50.3% |
| 検査事業 | 143,191 | **147,850** | 4,659 | 3.3% | 74,805 | 50.6% |
| 臨床検査 | 137,661 | **142,100** | 4,439 | 3.2% | 72,218 | 50.8% |
| 食品衛生 | 5,530 | **5,750** | 220 | 4.0% | 2,586 | 45.0% |
| 医療情報システム | 5,524 | **5,650** | 126 | 2.3% | 2,531 | 44.8% |
| その他事業 | 1,546 | **1,500** | -46 | -3.0% | 701 | 46.7% |
| 営業利益 | 10,421 | **10,500** | 79 | 0.8% | 6,064 | 57.8% |
| 経常利益 | 11,014 | **11,000** | -14 | -0.1% | 6,335 | 57.6% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 7,748 | **7,000** | -748 | -9.7% | 4,010 | 57.3% |
| EBITDA | 19,334 | **19,500** | 166 | 0.9% | 10,549 | 54.1% |

# 株主還元

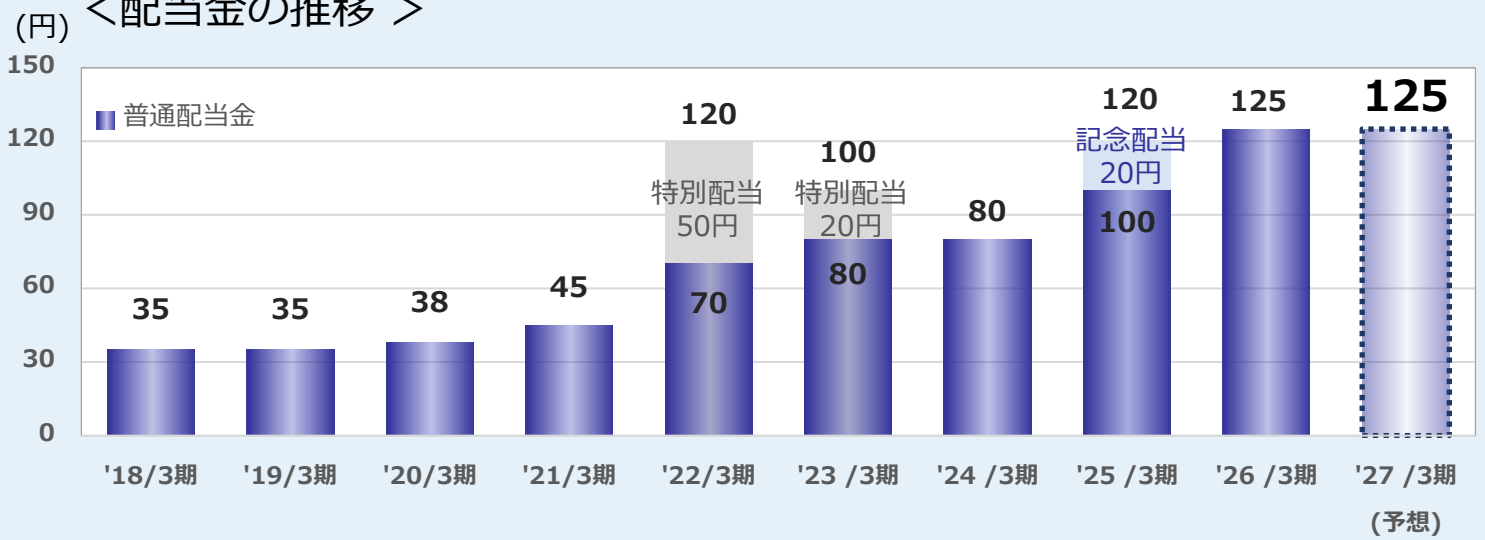
# 株主還元

■ 第9次中期経営計画の還元方針
・配当性向60%以上、かつ1株あたり120円以上

■ ’27年3月期の配当金は普通株式1株あたり年間**125円**を予想
(配当性向予想 ’27年3月期66.9%)

■ 自己株式の取得**5,000百万円**（‘26年11月11日公表）
(総還元性向予想 ’27年3月期138.4%)

＜配当金の推移 ＞



# Appendix

# ESGへの取り組み

## 社会

■ プラチナくるみん認定取得




→ ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの浸透に向けた取り組みとして、
「男性社員の育児休業取得促進」や「育児休業取得者の職場復帰支援」、
「復帰後のキャリア形成と子育ての両立」に積極的に取り組んでいます




■ えるぼし認定取得




→ 企業の持続的な成長に向けた重要な戦略の一つとして女性活躍推進を位置づけ、
管理職候補者の育成や、全社員の意識変革に向けた「ダイバーシティ研修」の
実施、「BML Women’s Workshop」の活動等を通じて、女性活躍推進の取り組みを進めています

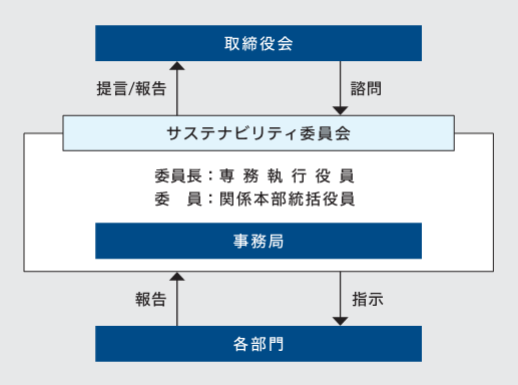
# ESGへの取り組み

## 健康経営

■ BML健康宣言

【豊かな健康文化を創造します。】
ビー･エム･エルグループは、この企業理念を実現するために、職員一人ひとりが健康第一の風土醸成を通じて、健康経営を推進し、豊かな健康文化の創造に貢献することを宣言します

■ 健康経営推進体制




■ 『健康経営優良法人 ～ホワイト500～』に4年連続で認定されました

2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大規模法人部門
ホワイト500

## 健康経営

■ 産業医監修の下、各種KPI(指標)とその目標値を設定し、達成に向けて取り組んでいます

| 評価指標 | | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 2028目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 定期健康診断受診率 | | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| 適正体重の割合（BMI　18.5～25未満） | 男性 | 64.7% | 63.1% | 61.4% | 59.7% | 63.0% |
| | 女性 | 69.2% | 65.1% | 65.9% | 65.0% | 67.0% |
| 非喫煙率 | | 78.8% | 79.6% | 80.0% | 80.5% | 82.0% |
| 運動習慣のある従業員 | | 16.2% | 14.7% | 18.1% | 18.1% | 19.0% |
| ストレスチェック受検率 | | 86.6% | 87.4% | 92.3% | 95.5% | 96.0% |
| 月間所定外労働時間※1 | | 15.8時間 | 14.7時間 | 15.0時間 | 14.6時間 | 14.9時間 |
| 年次有給休暇取得日数 | | 12.1日 | 12.3日 | 12.4日 | 12.8日 | 13.0日 |
| 健康増進研修参加率 | | 99.5% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| メンタルヘルス研修 | | 100.0% | 100.0% | 99.9% | 99.9% | 100.0% |
| プレゼンティーイズム※2 | | 80.8% | 83.0% | 79.0% | 77.1% | 83.0% |
| アブセンティーイズム※3 | | 2.4日 | 2.6日 | 2.9日 | 2.9日 | 2.1日 |
| ワークエンゲージメント※4<br>（ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度） | | 3.02 | 3.01 | 2.86 | 2.90 | 3.20 |

※１　月間所定労働時間　：　管理職を除いて算出

※２　プレゼンティーズム　：　出勤しているものの、健康上の問題によって完全な業務パフォーマンスを出せない状況


Expanding
with
Passion
2028

# 当資料取り扱い上の注意点

＜ 将来に関する記述等についてのご注意 ＞

本資料に記載されている将来に関する見通し、戦略、計画に関する記述等は、当社が現在入手している情報に基づく本資料作成時点での種々の前提に基づいた当社の判断であります。従ってこれらの記述・前提は、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。今後、様々な要因によって記載の見通しと異なる結果を生じえるリスクを含んでいます。また、今後予告なしに変更されることがあることをご了承下さい。